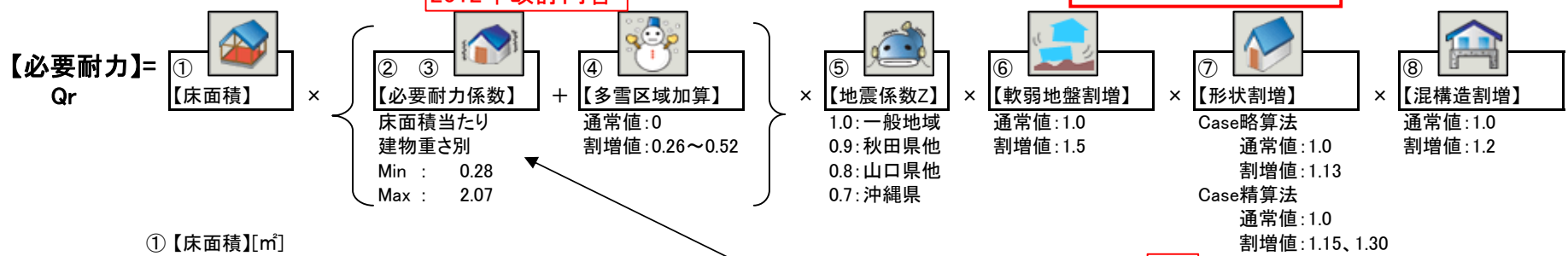


よくわかる 一般診断法(2004年改訂版「木造住宅の耐震診断と補強方法」)

黒字：2004年版
赤字：2012年改訂内容



- ①【床面積】[m²]
②【必要耐力係数】[kN/m²] ... 床面積あたり
床面積あたりの必要耐力[kN/m²]
建物の階数別
建物の重さ別 (軽い建物、重い建物、非常に重い建物)
Min : 0.28 Max : 2.07
- ③【建物の重さ】
建物の重さ(主に、屋根材等により決定)により、【必要耐力係数】が割増される。
[軽い建物].....スレート板、鉄板葺、ラスモルタル塗り
[重い建物].....棧瓦葺、土塗壁 [軽い建物]の1.2倍~1.4倍割増
[非常に重い建物]...土葺瓦屋根、土塗壁 [軽い建物]の1.7倍~2.2倍割増
- ④【多雪区域加算】
多雪区域では、積雪深により、積雪1mのとき0.26Z[kN/m²]、積雪2mのとき0.52Z[kN/m²]した値を加算する。
- ⑤【地震係数Z】
令第88条に規定する地震地域係数
[1.0]...多くの地域が1.0。東京、関東各県他 [0.9]...秋田県、新潟県他
[0.8]...山口県、長崎県他 [0.7]...沖縄県のみ
- ⑥【軟弱地盤割増】 **非常に悪い**
地盤が著しく軟弱と思われる敷地の場合は、【必要耐力】を1.5倍する。
通常値 : 1.0 軟弱地盤 : 1.5
- ⑦【形状割増】 (精密においては、さらに細分化されている)
2階建ての1階、3階建ての1、2階については、短辺の長さが4.0m未満の場合、その階の必要耐力を1.13倍する。
通常値 : 1.0 短辺が4.0m未満 : 1.13
- ⑧【混構造割増】
1階部分が、鉄骨造または鉄筋コンクリート造の場合は、【必要耐力】を1.2倍する。
通常値 : 1.0 鉄骨造または鉄筋コンクリート造 : 1.2

P26
P25: 床面積あたりの必要耐力係数 **★一般診断独自**
略算による方法
総2階を想定した方法
総2階ではない建物にとっては、必要耐力は実際よりも高い値(安全側)となる場合が多い。

	軽い建物	重い建物	非常に重い建物
平屋	0.28	0.40	0.64
2階建ての2階	0.37	0.53	0.78
2階建ての1階	0.83	1.06	1.41

P28
P37: 床面積あたりの必要耐力係数 **表の値一部変更あり**
精算による方法 (精密診断の略算法に同じ)
各階の床面積比を考慮した方法
「品確法壁量計算」の必要壁量と同じ手法

保有耐力の配置・床仕様による低減は4分割法ではなく、偏心率を用いることとする

【保有耐力】 = $edQ_u - Pd$

